

野菜に関する技術対策

(1) 施設野菜（イチゴ、キュウリ、トマト、ピーマン、チンゲンサイ、ニラ、コマツナ等）

果菜類では、開花期から幼果期の耐寒性が低いため、不受精や奇形果などの障害を生じやすく、他の時期の低温遭遇は生長点の芯止まりなどの生理障害を生じる場合が多くなります。

葉物類では、急激な低温遭遇で生育停滞や茎葉の枯死などの障害を生じることがあります。

ア 被害程度が大きい(ハウス全壊や半壊)場合は、安全を十分に確保してから被覆資材・骨材を撤去し、修復を行いません。

イ 被害程度が軽微(被覆資材の破損等)で、作物の栽培が継続可能な場合は、できるだけ早期に施設の破損の補修を行ない、温度確保に努めます。

ウ 施設内に融雪水や雨水が浸水した圃場では、換気を図るなどして湿度の低下に努めて下さい。また、根傷みにより草勢が低下しやすくなるため、摘果や早めの収穫で着果負担を軽減するとともに、液肥の葉面散布を行い草勢の回復を図ります。

エ 病害の発生が懸念されるので、損傷した茎葉の除去や薬剤散布など、防除対策に努めます。

オ 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植替えや再播種を行い、被害の軽減に努めます。

(2) 露地野菜（レタス、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー等）

冬春野菜の多くは、耐寒性が強く、生育期に寒害を受けることはあまりありませんが、生育の進んだ結球中の葉菜類などは耐寒性が低下しますので、細胞間隙や細胞質の水分が凍結に至ると被害を生じます。

ア 風雨により損傷した茎葉から病害の発生が懸念されるので薬剤散布等の防除対策に努めます。また、根傷みにより草勢が低下しやすくなるため、液肥の葉面散布を行い草勢の回復を図ります。

イ 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植替えや再播種を行い、被害の軽減に努めます。